

令和5年生駒市教育委員会第9回定例会会議録

1 日 時 令和5年9月25日(月) 午前9時30分～午前11時13分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

3 審査事項

- (1) 報告第13号 臨時代理につき承認を求めることについて(生駒市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の制定について)
- (2) 報告第14号 令和4年度決算報告について
- (3) 議案第25号 壱分幼稚園の認定こども園整備に関する基本計画の策定について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委 員 (教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	神 澤 創
委 員	レイノルズあい	委 員	伊 藤 智 子
委 員	古 島 尚 弥	委 員	中 川 義 三
委 員	吉 尾 典 子		

5 事務局職員出席者

教育こども部長	鋤 田 明 年	生涯学習部長	八 重 史 子
教育こども部次長	松 田 悟	教育総務課長	山 本 英 樹
教育総務課課長	松 本 芳 樹	教育指導課長	花 山 浩 一
幼保こども園課長	大 畑 勝 士	幼保こども園課指導主事	喜 多 美 枝 子
幼保こども園課指導主事	湯 川 祐 美 子	こども総務課長	武 元 一 真
子育て支援総合センター所長	角 井 智 穂	生涯学習課長	清 水 紀 子
図書館長	西 野 貴 子	図書館課課長	錦 好 見
スポーツ振興課長	西 政 仁	教育総務課課長補佐	桐 坂 昇 司
教育指導課課長補佐	中 田 博 久	教育政策室長	日 高 興 人
幼保こども園課課長補佐	小 林 奈 津 子	こどもサポートセンター所長	若 狹 美 登 里
生涯学習課課長補佐	井 川 啓 一 郎	図書館南分館長	谷 江 真 美 子
スポーツ振興課課長補佐	大 畑 由 紀	教育総務課 (書記)	佐 竹 裕 介
教育総務課 (書記)	吉 川 優 香		

6 傍聴者 1名

午前 9 時 3 0 分 開会

○開会宣告

○日程第 1 前回会議録の承認

○日程第 2 教育長報告

- ・生駒市学校給食費徴収規則について、山本教育総務課長から説明

<参照：資料 1 >

(質疑)

飯 島 委 員：給食に掛かるコストについて質問したい。9 月上旬に広島県にて、食材費の高騰によって給食会社の運営が厳しくなり給食が止まってしまった事例があった。生駒市はセンター方式なので、提供できなくなる事態までは考えにくい、食材費の高騰は起こっていると思う。運営が厳しくなってきた場合、高騰分は市で調整し、保護者が払う給食費は変わらないものなのか。

松 本 所 長：基本的に給食費の値上げはすぐにできるものではないが、ご指摘の通り食材費の高騰が起こっているのも事実である。今年度については、値上がり分を上乗せして予算を付けていただいたため凌げている状況であるが、このまま値上げが続けば給食費の値上げも検討する必要がある。

○日程第 3 報告第 1 3 号 臨時代理につき承認を求めることについて（生駒市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の制定について）

- ・臨時代理につき承認を求めることについて（生駒市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の制定について）、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書 p 1、資料 2 >

(質疑) なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第 4 報告第 1 4 号 令和 4 年度決算報告について

- ・令和 4 年度決算報告について、鉾田教育こども部長、八重生涯学習部長から説明

<参照：議案書 p 3、別冊 >

(質疑)

飯 島 委 員：3 点質問したい。まず、1 3 ページに「母子自立支援事業費」とあるが、これは母子家庭のみを対象としているのか。また、このような行政的支援が必要な母子家庭や父子家庭の割合を教えてください。次に 2 1 ページの中学校の情報教育推進事業費について、これによる先生や生徒たちへの効果

はどのようなものか。最後に、22ページの施設整備事業費にアスベスト調査とあるが、これはまだ学校にアスベストが残っている可能性があるということか。

武元課長：「母子自立支援事業費」については、国の制度にまだ「母子」という言葉が残っていることからこのような記載になっているが、市の制度としては名を改めており、父子も対象になっている。また、児童扶養手当については、令和4年度に507世帯が、令和3年度には513世帯、令和2年度には520世帯が受けている。およそ100分の1世帯ほどかと思う。

飯島委員：母子家庭と父子家庭それぞれの割合は分かるか。

武元課長：内訳までは今資料として持っていない。

花山課長：情報教育推進事業費については、19ページにもある通り、小中学校両方で行っている事業である。令和の日本型教育モデル事業については、AI学習ドリルQubenaを利用しており、生駒南小学校と生駒南中学校で2年間実証した。令和4年度と令和5年度の全国学力状況調査を比較すると、正答率が全国と奈良県の平均を上回る結果となった。特に小学校においては大きな効果を感じられた。さらに、算数と国語における正答率の分布図から、子どもたちがこれまで躓いていた部分の正答率が上がっているという結果が見られた。加えて、子どもと先生にアンケートを実施しており、その結果も好意的な意見が多かった。次にGIGAスクール運営支援センター事業について、どのアプリをどのくらい利用しているのかというICTの活用状況を把握できる点や、パスワードを忘れた場合やアプリの使い方が分からない場合に相談ができるものである。子どもたちや教職員の負担を軽減していると感じている。

山本課長：アスベスト調査業務について、建物の露出している部分については全て調査済みであるが、壁の中に入り込んでいるものについてはめくってまで調査はしていない。そのため、解体を伴う工事の際に随時調査している状況である。これは市役所庁舎等も同じである。今後も解体を伴う工事があれば調査が伴ってくる。

レイルズ委員：AI学習ドリルQubenaについて、令和3年度と令和4年度に2校で試験的に導入し、効果があったとのことであるが、令和5年度以降はさらに広げて使用しているのか。

花山課長：令和3年度の途中から導入が始まり、使用方法を分かってもらった上で令和4年度と令和5年度で検証した。今後は、他のAIアプリも並行して使う等で引き続き検証を行っていきたいと考えている。

吉尾委員：資料を見て、予算が適切に使われていると感じた。令和4年度や令和5年度で予算が足りなかった事業はあるか。力を入れている事業が知りたい。

鍬田部長：基本的には、予算案作成の際に必要な金額を積算しているため、足りないということはない。万が一、年度途中で追加の予算が必要になった際は、

流用を行う、補正案を議会に提出することで対応している。毎月の教育委員会で報告している事業がいくつかあるが、それが力を入れている事業だと思っていたら良いかと思う。

飯島委員：図書館のことで何点かお願いしたい。8月に子ども読書会議を開催しているかと思う。私も参加したが、継続的に行うということによって、関心を維持できると思うので、ぜひ今後とも引き続き企画をお願いしたい。また、駅前図書室について、蔵書数に比べると貸出冊数が非常に多い。このことから、やはり利便性が重要だと思うのだが、最も利便性が高いはずの電子図書の貸出冊数が少ない。どういう本が電子図書として読めるのか等を宣伝していただきたい。

西野館長：8月の子ども読書会議については、アーカイブをホームページで公開している。今年度は11月と3月に2回開催する予定である。今後も引き続き継続的にやっていきたいと思っている。電子書籍については、広報に努めているが、まだ知らない人や知っていても使えないという声を聞く。多くの人に利用いただけるように今後とも広報に努めていきたい。

伊藤委員：17ページの情報モラル研修について、かなり熱心に行っているように見えるが、詳細を教えてほしい。

花山課長：小中学生が対象である。各クラスや各学年単位で行っている。

伊藤委員：今はほとんどの小中学生がこの研修を受けた状態か。

花山課長：作成していただいた資料は小学校低学年用と高学年用、中学生用の3つがある。その資料を用いて、ICT支援員や学校の先生に研修を行っていただいている。正しい数は取っていないが、道徳や社会の授業に出てきたタイミングで一緒に研修するものなので、卒業までには触れる内容である。

伊藤委員：資料はすべての児童・生徒に行き渡っているのか。せっかく作成したものであれば、全ての児童・生徒が受けることができるようにアーカイブ配信等で工夫してほしい。

花山課長：アーカイブ配信や資料の配布については著作権の関係で難しい。

伊藤委員：来年度も引き続き、市内の児童生徒に研修を行っていただくことは可能か。

花山課長：可能である。行っていきたい。

中川委員：図書館事業について、私の自治会でも月1回のイベントで、図書館の本を持ってくることを検討している。学校の図書室について、司書を配置する等で取り組んでいただいているが、子どもたちの本の関心を高めるのは難しい。今後も本に親しみを持ってもらえるように、地域に出ていただくようお願いしたい。

西野館長：図書館でも、えん・くろすの活動を利用する等して、地域に参加していきたいと考えている。役員の方の負担になってしまうかと思うが、上手くいっているところもあるので今後も取り組みたい。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第5 議案第25号 壱分幼稚園の認定こども園整備に関する基本計画の策定について

・壱分幼稚園の認定こども園整備に関する基本計画の策定について、大畑幼保こども園課長から説明

＜参照：議案書p4～8、資料3、資料4＞

（質疑）

中川委員：2点ある。1点目は、資料3の3ページ4－（3）入園する子どもの選考に記載されている「排除されることのないよう公正な選考方法を定める」について、万が一公正でなくなる場合があれば、市へその理由を報告するような仕組みはあるのか。どのような理由で出来なかったのかを把握することで、次回からの対応に繋がると思うので、なければ検討してほしい。2点目は給食について、外部搬入している園は市内でいくつあるのか。また、栄養士の数や、各園で調理するのか、それとも統一された給食内容があるのか。そのあたりを教えていただきたい。

松田次長：給食の外部搬入について、認定こども園には今のところない。公立の認定こども園生駒幼稚園については、クックチル式で調理済みの食材が園に届くが、最終の温めや配膳は園で行っている。事業所内保育所であればもう1つ似た運営の園があるが、そちらも最終の配膳は園で行っている。

喜多指導主事：入園する子どもの選考について、認定こども園は保育所と同じく毎月入所会議にて選考をしている。児童虐待防止の観点から配慮が必要な場合は、点数加算して入所しやすいようにしている。また、ひとり親家庭や低所得家庭が排除されることは一切ない。ただ、特別な配慮が必要な子どもにおいては、職員の配置等が必要になるのですぐに受け入れられない場合はある。その場合は、受け入れ可能な別の園に入っていただき、受け入れられなかった園には人員を整えていくよう申し入れしている。

飯島委員：就学前の子どもは、身体的にも精神的にも未熟であるため、しっかり大人たちが見守ってほしい。最近ではバスの置き去り事故もあった。資料3の1ページを見ると、子どもの数に対しての先生の数が多いように思う。想定外のことが起きた場合に、どういう方針で対応していくのかを予め共通認識として持ってほしい。小中学校よりもフリーで動ける先生が少ない印象があるので、十分注意してほしい。

松田次長：公立園も同じであるが、基本的にはヒヤリハットの報告と共有をしている。また、研修を行っているので、そこに参加していただくように情報の共有に努めたい。人材について、資料3の表の職員とは保育士を指す。足りない部分は国の補助金も手厚い保育補助者等でできる仕事もあるのでその人員確保ができると考えている。協定書にも反映したい。

イノブ委員：給食体制について、資料3の3ページに「調理室において調理された食事を提供することが必要です」とあるにも関わらず「給食の外部搬入を認める」とある。理想は調理室で調理したものを食べてもらうことだと思うが、どのような想定をしているのか。

松田次長：認定こども園、幼保連携型の認定こども園においては、0から2歳児を保育する場合は調理室を設けないといけないという規定がある。一方で、幼稚園型の認定こども園における3から5歳児については、自園調理を原則としているが、場合によっては認められる。そのため、壱分幼稚園が現状目指している幼保連携型の認定こども園である限りは、必ず調理室を設けていただき、自園調理が必要になってくる。

原井葉子：議案書6ページの表や資料3の4ページを参照してほしい。

イノブ委員：南こども園で幼稚園に通っている子どもはお弁当も選べたかと思うが、壱分についても同様か。

松田次長：南こども園は、正式な認定こども園ではなく、幼稚園と保育園が一緒の施設にあるという特殊な運営であるため、幼稚園に通う子どもはお弁当も選択できた。一方で壱分幼稚園は認定こども園になるので、アレルギー等の例外がない限り給食を食べてもらうことになる。

伊藤委員：1学級あたりの子どもの人数について、今小学校では生駒市独自で1学級あたりの子どもの人数を減らしていく方向で動いているが、こども園についてはそのような方針はあるのか。

松田次長：認定こども園は、現状30人程度で1学級としているが、国が見直しを考えているようなので、変更があれば対応する。

伊藤委員：生駒市独自で手厚くしているといったことはしていないのか。

松田次長：生駒市独自の基準はないが、特別な配慮が必要な子どもがいる学級への人員の加配はある。

吉尾委員：資料3について、これから壱分幼稚園を運営するにあたって、この基準を最低限クリアして設置しなければいけないという認識で間違いはないか。

松田次長：その通りである。国の基準であるので、これを最低限守る必要がある。

吉尾委員：園児の募集は保育園の申し込みのような形になるのか。

喜多指導主事：1号認定を希望する方は、幼稚園と同じように園へ直接連絡をしてもらう。2号・3号を希望する方は保育園と同じように市に申請していただき点数に応じて選考する。

吉尾委員：南こども園と同じような形になるのか。

喜多指導主事：現在、幼保連携型のこども園は私立しかないが、同じような形になっている。

吉尾委員：配慮が必要な子ども等、幼稚園を必要とする家庭は今後も一定数あるかと思う。また公立園で作成した幼保統一カリキュラムは、小学校との接続にも重要なものだと思う。これらの点に対応できるスキルやキャリアを持つ

た人材も、重要になってくると思う。行政として、生駒市の就学前教育の内容・重要性をしっかりと共有してほしい。

原井教育長：議案書7ページ③に吉尾委員が今おっしゃっていただいた部分が記載されているかと思う。保護者の方には、民営でも市の教育保育の方針を反映できるというような公私連携型のメリットをしっかりと共有していきたい。

吉 尾 委 員：市の教育保育の方針を反映できるという点は、非常に重要である。市の場所だけ貸して運営を任せますということではないということをしっかり伝えてほしい。

伊 藤 委 員：民営の場合、県からの監査はあるかと思うが、公立園と比べて市との付き合いが薄くなってしまうのではないかと思う。この園に限らず民間園との関わりをもう少し踏み込んでほしい。

原井教育長：現在でも指導主事が私立園に度々訪問しているかと思う。

喜多指導主事：監査は県が行っているが、市としても指導主事や栄養士、事務の方と定期的に巡回を行い、校舎の見回りや聞き取りをしている。4月から安全計画が義務化されたが、それについても聞き取りを行っている。また、年に3回市内の各園長が集まる公私立合同園長会を行っており、話し合いの場を設けている。

伊 藤 委 員：今後も継続していただきたい。

審議結果 【継続審議】

○日程第6 その他

・教職員の夏期研修の実施について、花山教育指導課長から説明

<参照：その他資料1>

(質疑)

古 島 委 員：アンケートを見て全体的に満足度が高いと感じたが、研修日と健康診断の日が重なっていたのか。

花 山 課 長：例年夏休み中の開催となるため時期が重なってしまう。

古 島 委 員：アンケートの中でリモートでも良かったという意見があった。せっかくなので、対話だから良いと思ってもらえるようなものにしてほしい。また、小学校外国語授業づくり研修について、教科書採択でも話題になったライティングについての内容があった点が良いと思った。先生方からの評価も良いようなので、引き続きお願いしたい。

飯 島 委 員：ポジティブな意見が多いが、要望を記載できる項目があれば、反省点が見え、次年度以降より良くなっていくと思う。

伊 藤 委 員：夏休みの中、参加人数が多い点が良い。内容としても、私としても教科書選定の際に気になっていた、外国語のライティングや小中の連携の部分に触れていただきありがたい。特別支援教育についても参加人数が多く良い。

このような内容で保護者向けのものがあれば良いと思う。オンラインでもあれば嬉しい。検討してほしい。

吉 尾 委 員：「小学校外国語授業づくり研修」に中学校の先生が受講されていた。かなり有意義だと思う。中学校の先生へ、小学校の研修にも参加するように伝えることは可能か。

原井教育長：中学校の先生は部活動が盛んな時期で参加が難しい方が多いことをご了承願いたい。

神 澤 委 員：ＳＯＳ研修について、毎年行っていてありがたい。ただ、もっと継続性をもってしていただければより良いと思う。

・令和５年１０月行事予定について、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明（質疑）なし

○閉会宣告

午前１１時１３分 閉会